

ムナグロ(チドリ科) 全長24cm

5月上旬、大曲下深井の田んぼでムナグロの集団が見つかりました。

野鳥講座S氏からの情報で、早速現地に向ったところ幸いにもまだ10数羽が残っていました。羽の様子が田んぼの黒い土と似ているせいか、動き回らないと何処にいるのかよくわかりません。



成鳥、大きな瞳が可愛く見えます。

車の中から撮影を開始。時間が経つにつれだんだんと近づいてきました。

車や人をあまり警戒していない様子。喉から首、胸、下腹部にかけてが黒く、正に名前の通りの「胸黒」でした。主に海岸沿いに棲息していることから、内陸部での観察例は少ないのではと思われました。



胸がまだ黒くないので、幼鳥でした。



三羽が並びました。成鳥、幼鳥の違いがよく分かります。

後日、野鳥の会ベテラン会員に問い合わせたところ、過去に県南部で1~2羽の飛来は確認されているので特に珍しい事ではないが、数十羽もの集団飛来はなかったようです。

S氏の観察では、最大100羽もカウントされていることから、大仙市内最大の飛来数ということになりそうです。



集団で移動することが多く、スピードが速いので撮影は難しい。



畦道に上がり、周囲を警戒しているのでしょうか。

春耕前の田んぼの中を、駆け寄っては立ち止まりを繰り返し採餌していた。
主な餌は動物質の昆虫類が多く、地上や草の間の虫、干潟では甲殻類やゴカイなどもよく食べるそうです。



名前のムナグロがよく理解できます。



一瞬ではあったが、両翼を開いたところを写せました。

ユーラシアと北米大陸の寒帯で繁殖し、日本には旅鳥として春秋の渡りの時に飛来します。

周辺の田んぼを、広範囲に行ったり来たりしながら10日間ほど滞在して体力をつけたのでしょうか、まもなく姿が見えなくなりました。